

## 第3章

### 計画の理念と目標

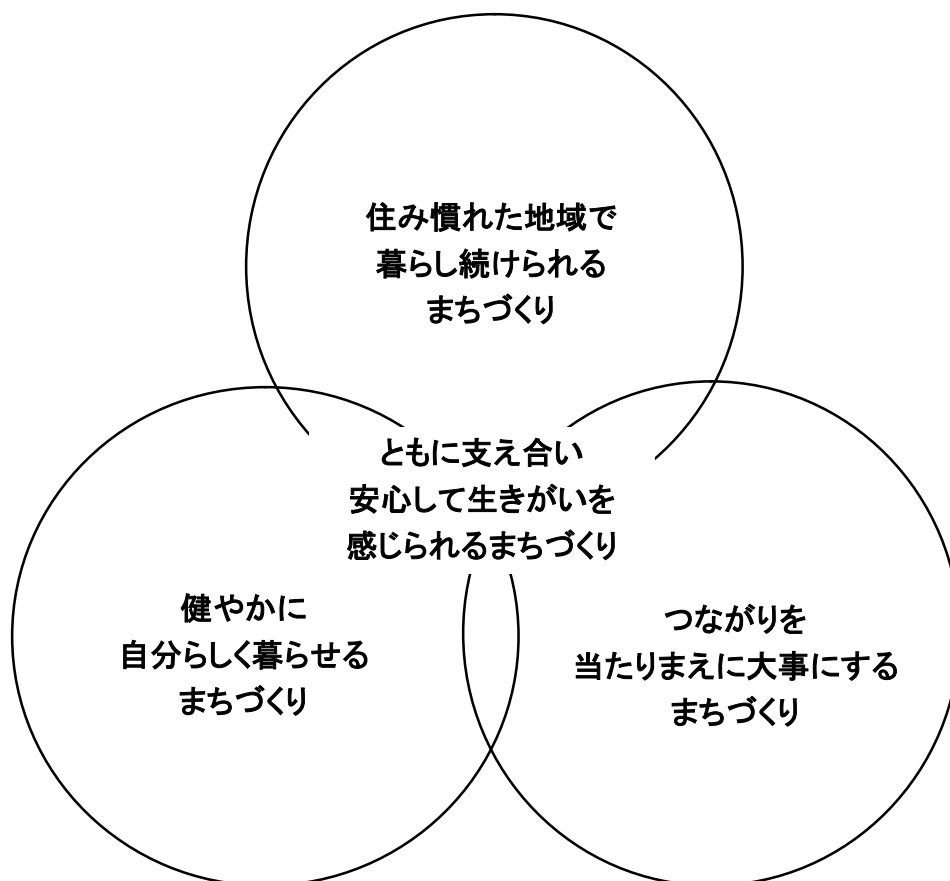
- 1 基本理念
- 2 基本目標
- 3 施策の体系

## 1 基本理念

本計画では、当別町第5次総合計画や当別町地域福祉計画、北海道高齢者保健福祉計画・介護保険支援計画「北海道地域医療構想」など関連する計画との整合性を図りながら、国の基本指針や介護保険制度の改正などの動向もふまえ、第7期計画では新たに「ともに支え合い安心して生きがいを感じられるまちづくり」を基本理念として、当別町に住むすべての高齢者が安心して暮らせるよう、各種事業を展開します。

ともに支え合い安心して生きがいを感じられるまちづくり

— 当別町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 —



「ともに支え合い安心して生きがいを感じられるまちづくり」の理念図

## 2 基本目標

### 基本目標 1 住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり

住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、必要なサービスをより利用しやすくするために相談機能を充実させ、住民に対する情報提供や周知を図ります。また必要な医療・介護サービスが継続的・一体的に受けられるよう、医療と介護の連携を推進し、認知症の人も地域で安心して暮らし続けられるよう早期発見・対応の仕組みづくり、家族・介護者の支援等ケア体制の整備に取り組みます。

#### (1) 暮らしを支える体制整備

当別町版地域包括ケアシステムの構築を目指し、様々な関係機関に日常的な困りごとに総合的・包括的に対応する地域包括支援センターの活動の促進や、関係者のネットワーク化、ニーズとサービスのマッチングなどを担う「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」の活動を促進し、多様な生活支援や社会参加のニーズに応えられる地域づくりを目指します。

また、看取りなど医療的な支援が必要になっても住み慣れた地域生活が継続できるよう、医療・介護の連携を進めるため、医師会や保健所、近隣市町村と十分な協議を重ね、既存の資源を活用しながら当町の実情に合った在宅医療と介護サービスの連携及び提供体制の構築に向けた検討を行います。

#### (2) 認知症の人とその家族への支援

認知症になっても住み慣れた地域で生活を継続するためには、医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成することが重要です。

そのため、認知症の人を段階的に支援していく道筋を示した「認知症ケアパス」や、医療機関・介護サービス事業所や地域の支援機関をつなぐ役割を担う「認知症地域支援推進員」、複数の専門職による訪問支援により包括的・集中的にサポートする「認知症初期集中支援チーム」を活用し、地域ケア会議等で十分な協議を行いながら支援体制の構築に取り組みます。

このほか、より幅広い世代の住民に認知症に関する理解を深めてもらえるよう、認知症サポーター養成講座や啓発事業を継続するとともに、徘徊する高齢者の安全を確保できるような地域ネットワークの推進として、協力機関の意識向上に向けた定期的な意見交換の場を設けたり、模擬訓練等を行うなど、地域全体での見守り体制の充実に向け取り組みます。

また、介護に不安を抱える家族への支援の充実を目指し、「介護者と共に歩む会」や「認知症カフェ」の活動を支援します。高齢の介護をする家族への支援はもちろん、働き世代の介護をする家族に対しても、介護離職の防止のための取り組みなどを防ぐための対策・取り組みについても検討していきます。

### (3) 地域の見守りや権利を守る取り組み

普段から、隣同士やご近所同士の声掛けや見守りをはじめ、地域に住む人同士がお互い支え合えるよう、町内会を中心とした地域での見守り体制づくりを支援します。また、社会福祉協議会が実施している、とうべつ見守り安心センター事業などの取り組みと連携しながら、社会から孤立する高齢者の見守りや安否確認のシステムを確立していきます。

また、いち早く「もしものとき」に支援ができるよう、民生委員や社会福祉協議会の活動などの普及に努めます。また、高齢者虐待への迅速な対応や成年後見制度の利用促進、後見実施機関の設置等により権利擁護のための取り組みも積極的に推進します。

#### <成果指標>

- 「将来も今住んでいる地域に住み続けたい」と考える人(65歳以上)の割合の増加

現状値	H32 年度目標値
77%	80%以上

※ 現状値:高齢者の「もしものとき」に関する調査(H28 年度)

- 「認知症などの病気が心配」と考える人(65歳以上)の割合の減少

現状値	H32 年度目標値
57%	55%以下

※ 現状値:高齢者の「もしものとき」に関する調査(H28 年度)

## 基本目標 2 健やかに自分らしく暮らせるまちづくり

すべての住民が健康でいきいきと暮らしていくことができるよう、生活習慣病や加齢・疾病による機能低下をできるだけ防ぎ、早期発見や状態改善、重度化の予防を図る認知症予防・介護予防施策を推進し、できる限り要介護状態にならないための健康づくりや介護予防事業の取り組みを推進します。また、北海道医療大学との連携を強め、シャッキリ体操など介護予防に資する活動の普及を進め、地域の高齢者の自発的な取り組みを支援します。

地域包括ケアシステムの構築に向けては、専門職の介護人材を身体介護を中心とした中重度のケアに重点化していくことが必要となります。まずは自助・互助という日常の生活を前提にしながら、自らの努力や地域の支え合いだけでは困難な部分を介護保険等の公的サービスで補うという考えのもと、「支えられる側」の年齢になっても、まだまだ生きがいや役割を持って生活を送りたい高齢者などが「支える側」に加わっていくという仕組みをつくり、幅広い生活支援の担い手の活動を支援します。

### (1) 健康づくりと介護予防の推進

高齢者が自ら健康に関する情報を収集・活用できるよう、健康講座などを北海道医療大学や社会福祉協議会、NPO法人、町の職員などが連携して実施し、誰にでもわかりやすい健康・福祉教育の推進と、介護予防のための筋力維持、向上に向けた運動の機会の提供を進めます。また、新たに創設された「当別町共生型ボランティア」により、ちょっとした日常の困りごとの解消や見守りによる生活支援を提供すると同時に、地域住民の幅広い活躍の場を提供し、高齢者自らが担い手側として活躍することで結果的に介護予防へつながり、いきいきと生活することができる地域づくりを展開します。

### (2) 社会参加と生きがいづくりの支援

自らの豊富な経験と知識を生かして積極的に社会参加をすることで、地域の中で生きがいを感じながら充実した生活を送ることができるよう、地域活動に関する情報提供や、生涯学習など多様な活動の整備を図ります。

また、買い物や通院時等の移動支援については、高齢者の閉じこもり防止や社会参加に不可欠なサービスであり、支援に対するニーズも多いことから、多様なサービスについて、関係事業者等と協議を行い、効果的な支援のあり方を検討します。

<成果指標>

- 「週に2日以上運動している」人（65歳以上）の割合の増加

現状値	H32年度目標値
48%	50%以上

※ 現状値:高齢者の「もしものとき」に関する調査(H28年度)

- 要介護認定率の増加割合の抑制

現状値	H32年度目標値
18.1%	18.6%以下

※ 現状値: H29年10月実績値

### 基本目標3 つながり・支え合いを当たり前にするまちづくり

住民同士が当たり前のように日常的につながり、支え合うまちを目指し、住民の集いの場や交流する場づくりを進めます。

また災害時・緊急時など「もしものとき」に備え、緊急通報サービスの周知・普及や地域福祉支援台帳の活用、災害時の具体的な役割や動き方について、関係機関と連携しながら検討し、迅速かつ効率的な支援が提供できるよう努めます。

#### (1) つながり合い、支え合う地域づくり

災害時や緊急時など「もしものとき」だけではなく、日常的な住民同士のつながり合いや支え合いは、いきいきと地域で暮らし続けていくためには不可欠です。

ボランティアを通じ高齢になっても地域の中で役割を持って暮らすことは、生きがいや社会参加、世代間交流といった介護予防につながる効果も期待できることから、町民のボランティア活動を積極的に支援します。

また、高齢者クラブ活動や地域サロン等、高齢者が主体的に運営に参画する自発的な通いの場や、多世代の人が交流できる集いの場づくりを支援します。

#### (2) もしものときの支援体制整備

緊急時や災害時に援護を必要とする方々の情報を掲載した「地域福祉支援台帳」を活用・周知し、日常の見守りや災害時の支援に活用する体制を整備するとともに、社会福祉協議会や町内会などと情報を共有し、「もしものとき」の支援に備えていきます。特に関係機関・関係者が実際に誰に対し、どのような支援を行うのか、関係機関・関係者の役割について具体的に検討し、避難行動支援や訓練を行っていきます。

#### <成果指標>

- 「この地域の人々は信頼できる」と考える人（65歳以上）の割合の増加

現状値	H32年度目標値
74.5%	77%以上

※ 現状値：高齢者の「もしものとき」に関する調査(H28年度)

- 「ボランティア活動」に参加する人（65歳以上）の割合の増加

現状値	H32年度目標値
11%	13%以上

※ 現状値：高齢者の「もしものとき」に関する調査(H28年度)

### 3 施策の体系

基本理念	基本目標	施策の方向	
<p>ともに支え合い安心して生きがいを感じられるまちづくり</p>	<p>住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくり</p>	暮らしを支える体制整備	(1) 当別町版地域包括ケアシステムの構築推進
			(2) 住まいと生活環境の整備
			(3) 在宅医療と介護の連携推進
	(4) 介護予防・日常生活支援総合事業の推進		
	(5) 適切な情報提供の推進		
	認知症の人とその家族への支援	(1) 認知症高齢者の早期発見・早期対応	
		(2) 認知症の人が暮らしやすい地域づくり	
		(3) 認知症初期集中支援チームによる支援	
		(4) 介護をする家族への支援	
地域の見守りや権利を守る取り組み	(1) 社会福祉協議会の役割の推進		
	(2) 地域の力による重層的な見守り		
	(3) 高齢者の権利を守る取り組み		
<p>健康やかに自分らしく暮らせるまちづくり</p>	健康づくりと介護予防の推進	(1) 健康づくりの推進	
		(2) 介護予防活動の支援	
社会参加と生きがいづくりの支援	(1) 外出の手段と機会の確保		
	(2) 生きがいづくりの支援		
<p>つながりを当たりまえに大事にするまちづくり</p>	つながり合い、支え合う地域づくり	(1) ボランティア活動の推進	
		(2) 集い・つながる場の創出	
もしものときの支援体制整備	(1) 災害時・緊急時のサポート体制づくり		



## 主な取り組み

➡	総合相談、権利擁護、虐待防止ネットワーク会議の開催、包括的・継続的ケアマネジメント 介護予防ケアマネジメント、地域ケア会議の推進、生活支援の体制整備	p.36
	高齢者の住まい方の支援、養護老人ホーム、ユニバーサルデザイン化の推進	p.38
	在宅医療と介護の連携推進、多職種連携	p.38
	訪問介護相当サービス・通所介護相当サービス・通所型サービスAの実施	p.39
	住民目線の幅広い情報提供、地域資源の情報整理と発掘、関係機関との情報共有 課題解決に向けた協議	p.39
➡	認知症ケアパスの配布、認知症支援体制の構築	p.40
	認知症地域支援推進員の配置、認知症サポーター養成講座、あったかサポーター活動支援 SOSネットワーク事業	p.40
	認知症初期集中支援チームの設置	p.41
	認知症カフェ、介護離職防止に向けた取り組み、認知症理解の推進、家族支援	p.41
➡	愛の訪問サービス事業、とうべつ見守り安心センターの設置、ふれあいいきいきサロンへの支援 心配ごと相談、日常生活自立支援事業、成年後見制度の普及推進	p.42
	民生委員・児童委員活動の推進、配食サービス事業	p.42
	高齢者虐待の防止、成年後見制度利用促進事業、市民後見人養成と後見実施機関の設置	p.43
➡	健康づくり活動の推進、健康教育・健康相談機会の提供、がん検診・健康診査の推進 感染症予防の推進	p.44
	一般介護予防事業の推進(介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業)	p.45
➡	除雪サービスの実施、外出支援サービスの実施、地域公共交通等の充実と交通弱者への支援	p.46
	シルバー人材センター活動の充実、健康福祉出前講座の実施、生涯学習の支援	p.46
	ふれあいスポーツ大会の開催、高齢者福祉センター	p.46
➡	当別町ボランティアセンターによる総合的ボランティアコーディネートの実施 ボランティア活動支援	p.48
	高齢者クラブ活動の充実、地域サロン等の集いの場への支援、共生型拠点での世代間交流	p.48
➡	緊急通報サービスの設置、災害時要援護者への支援、地域福祉支援台帳の普及	p.50

